流離譚連載の第一回にある次の記述について検証します。

私の親戚に一軒だけ東北弁の家がある。

・・・

あれは、たしかシナ事変が大東亜戦争に発展する前後の頃だ。その日、母は何処かに出掛けて、私だけが家にゐた。玄関に声がして、

・・・・私が「父はいま、戦地に出かけて留守ですが・・・・」といひかけると、その人は、

「それはわかつてゐます」と・・

・・・何年か前に高知県で秀彦伯父に会ひ世話になつたからと、その挨拶をしに来られたのだといふ。何日かたつて、予定より遅れて上京した伯父を案内して、私は目白か下落合かにあつた正光氏のお宅に返礼の挨拶に行つた。そのとき伯父と一緒に私も招じ上げられて、お酒をご馳走になりながら遅くまで・・・

＊　正光は福島に移り住んだ正熙の息子

上の写真中央に安岡章太郎 安岡章の家の縁側で撮影。その後、秀彦の息子、娘、甥が集まって食事会がありました。

チラシ寿司を用意して皆を待つ女性達

章太郎(左)の叔母、従兄姉、甥姪たち

これら写真の撮影日は何時、撮影者は誰、

正光は章太郎の家を訪問したか？

＊秀彦日記から秀彦の東京訪問の記録

・昭和十五年五月二日高知を出て奈良経由で

六日（月）東京着(息子の家泊)～十二日（日曜）帰高

・昭和十七年六月一日（月）から六日（土）　東京へ出張・章宅で馳走になる

・昭和十八年三月八日　正光が山北訪問

・昭和十八年五月八日（土）　章太郎と共に正光宅訪問　九日　正光が恒（章）宅に土産を持って来る

・秀彦息子の寿雄はこの頃岩国に転勤

＊正光からの手紙（年不明五月十九日付）がありそこに

日曜日(＊月日不明)に代田の家を訪問したが秀彦不在、その後秀彦が正光宅を訪問（秀彦日記に記載なし）

に正光が不在であったことを詫びている。

検証結果

・縁側の写真で背負われた赤子の誕生が昭和十六年八月なので昭和十七年六月に撮影したと推定。

・この写真撮影の日の日記に「章宅で馳走になる」とあり、写真は同じ日に撮影

・正光は秀彦の東京訪問を高知の実母の実家島村からの情報を在京の従兄弟経由で宿泊先（秀彦の息子の家は代田住居）を知ったと推定。直接に恒（章太郎）宅に行く事はない。

結論・写真は昭和十七年六月に秀彦撮影。

・正光は恒（章太郎）宅を昭和十八年五月九日に訪問している。

この時、玄関で章太郎が対応している可能性はある。

が、その前に章太郎と正光は対面している。

＊前述の謎探索と関係はないが、昭和十八年安岡章太郎の出来事秀彦の日記から抜粋をし次に示します。

・昭和十八年三月正光が山北訪問、五月章太郎、伯父と正光宅訪問

・昭和十八年十月十九日　章太郎山北墓参訪問の連絡受ける

・昭和十八年十月二十一日　章太郎母恒より

明年三月東京都赤阪(＊坂)ノ聯隊ヘ入営ト決ツタ由恒ヨリ電報アリ

・昭和十九年三月十五日　秀彦男章太郎ヘ入営餞別を送る